

〔学術資料〕

## スライド作成と口頭表現技術を学ぶ日本語教育 —留学生の「日本語プレゼンテーション授業」から—

### How Foreign Students Have Learned the Way to Present in Japanese

山田 陽子

YAMADA Yoko

- 1 はじめに
- 2 「日本語プレゼンテーション」授業における意義と役割
- 3 授業計画と実践  
資料1～4
- 4 おわりに

**要旨：**本稿は、大学の留学生を対象とした日本語プログラムの中から日本国内の日本語教育では実践事例が少ない「日本語プレゼンテーション」の授業を取り上げ、視覚資料（本授業ではPowerPointスライド）を用いたプレゼンテーション学習の資料を提示するものである。

授業は、日本語学習者が研究発表テーマを決め、それに基づいて調査を行い、考察から結論に至るまで視覚資料を使用して大勢の人の前で発表する形式をとっている。研究調査、スライド作成、発表等の学習プロセスから「日本語プレゼンテーション」授業の意義や役割を検討し、実践例を資料として提示した。

**キーワード：**留学生、日本語プレゼンテーション、日本語教育、発表、スライド

#### 1 はじめに

本稿でとりあげる大学の日本語プログラムは、共通教養教育科目である日本語授業として位置づけられ、外国人留学生・研究生が大学・大学院の授業、卒業論文発表、研究発表等で困らない程度の日本語能力を育成することを目標にしたものである。その日本語プログラムの一環として、「日本語プレゼンテーション」<sup>1)</sup>という科目が正規授業として行われている。

これまで留学生の日本語科目に関しては、宮谷・太田・山田（2003）の多文化間コミュニケーションのためのディスカッションプログラムの報告がある。日本語学習者との会話において日本人学生がどのようなコミュニケーション活動をしているかを明らかにしている。また奥村

(2005) は、プレゼンテーション授業の実践を行い、パワーポイントによる表現法の利点を生かした授業プロセスに関する報告をしている。

このような報告はあるものの、留学生を対象にした日本語プレゼンテーション科目に関する実践報告、日本語プレゼンテーションの教師用指導テキスト、日本語学習者のための教科書等は多くあるわけではない。また日本語を使用してプレゼンテーションができるまでの学習プロセスをわかりやすく紹介した留学生用テキストも少ない。参考モデルになるようなプレゼンテーション事例研究もあまりなされていないという国内日本語教育の現状がある。教師は授業で学生の日本語能力に合わせ、様々な方法を試しながらプレゼンテーションの方法を教えているのではないだろうか。

それは「日本語プレゼンテーション」科目を、パワーポイントを使用しスライド作成によるプレゼンテーション授業と考えた場合、日本語会話やスピーチと異なり、日本語のスキルだけではなく、インターネット、パソコンのスキルなど複合的なスキルを必要とする問題があり、日本語教育単独の問題として分析しにくいという面がある。

しかし、大学のゼミ発表・研究発表ではパソコンを使用した視覚資料を提示しながらの口頭発表を要請されることもあり、そうした発表スキルを大学生としての早い段階で専門教育への橋渡し学習として実践的に行うことも必要ではないかと考える。

以上の問題意識から、本稿では実際に大学で実践された「日本語プレゼンテーション」という留学生対象の授業を紹介し、日本語学習活動例を提示したい。

海外と日本国内における日本語プレゼンテーションの授業を見てみよう。韓国のP大学日本語学科（仮名）では、「日本語プレゼンテーション」の授業目標を「日本語を使って大勢の人の前で話すことができる」としている。P大学はパワーポイントを使用せず、決められたテーマに沿ってスピーチする授業内容で、「スピーチ」能力の向上を目指している。

一方、中国のT大学日本語学科（仮名）では、パワーポイントを使っての研究発表能力はもう既に備わっていることが前提となっており、「日本語プレゼンテーション」の授業として設けられてはいない。学習者が論文発表の際に、自ら視覚資料を作成し公開審査で発表するための練習をしながら学習している状況である。また日本国内においては、N大学留学生別科（仮名）で、留学生各自が決めたテーマをもとに調査を行い、板書した調査結果を学生が口頭で説明する形式をとっている。ここでは、わかりやすく書く「板書能力」と説明する「話す」能力の育成を中心として日本語教育が展開されている。このように「日本語プレゼンテーション」の授業方法は、どのような日本語能力を育成するかにより、異なった形式で行われている。

本稿で扱う「日本語プレゼンテーション」は「外国人留学生が自ら決めたテーマをもとにインタビューやアンケート調査を行い、テーマ選択から調査、それに基づく考察、結論等をスライドにまとめる。それを映しながら行う口頭発表」をいう。外国人留学生の「研究発表に役立つこと」

を目的としている。

本稿では日本語プレゼンテーションの授業実践を取り上げ、外国人留学生の日本語学習活動を紹介したい。(調査対象者:「日本語プレゼンテーション」受講留学生10名、調査期間:2011年9月~2012年1月)

## 2 「日本語プレゼンテーション」授業における意義と役割

「プレゼンテーション」とは何か。それは「社会におけるさまざまな場面での表現活動」(福井有監修・大島武編著、2009、1)と捉えられる。したがって、大学生・大学院生・研究生等が新学期に大勢の学生の前で自己紹介をしたり、研究発表することもプレゼンテーションと捉えられる。しかし、プレゼンテーションは「聞き手本位の姿勢を貫いたスピーチ」(前掲書、3)という点で、話すこと自体に重点を置いた「スピーチ」とは異なる。つまり、プレゼンテーションの善し悪しを決定するのは、「聞き手」である。絶えず聞き手を意識して、聞き手に理解してもらえ、自分の話の意図が明確に伝わるようにしなくてはならない。このことは、日本語母語話者であろうと日本語学習者であろうと同様である。これまで日本語教育の分野では、日本語学習者への日本語教育として文法をはじめ「話す」、「読む」、「書く」、「聞く」の4技能に関する分析、教師への提言としての教育方法、教材開発などの報告が多くなされてきた。しかしながら日本語学習者の話を聞く側の人たちへの視点はあまり考慮されてこなかった。

「日本語プレゼンテーション」の授業においては、プレゼンターと聞き手の双方が日本語学習者である。聞き手でもある日本語学習者に日本語を使用してわかりやすく伝えることが重要である。そのためには聞き手のことを意識しながら、日本語学習者の話し方や説明の仕方、内容構成、発表原稿作成、スライド作成などのプレゼンテーションスキルをより丁寧に指導する必要がある。「日本語プレゼンテーション」の発表時には、聞き手が日本人学生なら用意しなくてもよい新出語リスト・語彙表なども、聞き手の留学生には配布する必要がある。

日本語教育には、ことばそのものを教える言語教育の側面と日本の社会や文化、歴史、習慣、風俗等、いわゆる「日本事情」を教える側面との両面がある。「日本語プレゼンテーション」は、その両面を包含する日本語科目と捉えられる。この授業は言語教育や日本事情と切り離して成り立つものではない。言語運用能力もさることながら、ことばの知識と日本社会に対する多くの知識を併せ持ったうえで、ことばを使って聞き手とのコミュニケーションをはかる能力が必要な科目である。さらに「日本語プレゼンテーション」の授業は、発表する行為を通して研究成果を世に公表する重要な意義・役割を担っている。「日本語プレゼンテーション」のわずかな受講期間内に、日本語の技能だけではなく研究調査データの収集方法やスライド作成方法なども実践的に学習し、身につけていかなければならない。そして、この授業が日本語学習者の専門分野との連繋をもっていることが期待されるのである。

### 3 授業計画と実践

日本語学習者の習熟度に合わせてフレキシブルに授業計画を立てることにした。本稿で取り上げる2011年度後期授業は1週間に1回、90分授業で、全15回である。後期授業の中で、全員のプレゼンテーション発表会（公開授業）を「中間発表」と「期末発表」の2回設けることにした。発表日を1カ月程前に決定し学生に伝えておくことで、目標に向けたモチベーションを維持できるのではないかと考えた。また発表会は期末試験の一部との位置づけで、成績評価の対象になる。発表日の前週には、発表リハーサルとして本番と同様の予行演習を実施した。2011年度後期の授業では、11月下旬に1回目の発表会、新年1月下旬に2回目の発表会を実施した。

#### 【日本語プレゼンテーション】

（1クラス学生10名のケース）

会場：大学の教室

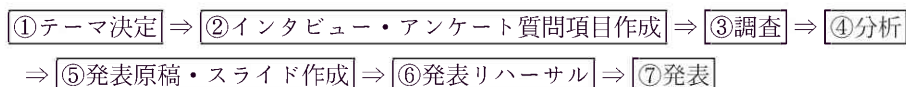
準備：パソコン（パワーポイント使用）による視覚資料（スライド）、プロジェクター（スクリーンのスライドが後ろの席からもよく見えるように、机とイスをレイアウトする。）

表1 日本語学習者のプロフィール

（第1回発表日時点での滞日歴・日本語学習歴）

学習者	性別	年齢	国籍	滞日歴	日本語学習歴
1	女	21	韓国	2カ月	1年
2	男	24	韓国	10カ月	2年
3	女	21	韓国	2カ月	2年
4	男	24	韓国	1年8カ月	2年8カ月
5	女	20	中国	2年5カ月	2年5カ月
6	女	21	中国	2年1カ月	2年4カ月
7	女	21	中国	2カ月	2年2カ月
8	女	21	中国	2カ月	2年2カ月
9	男	21	中国	2カ月	2年2カ月
10	男	21	ドイツ	2カ月	2年2カ月

図1 日本語プレゼンテーションの発表までのプロセス



留学生は日本語プレゼンテーションの授業で何を学びたいのか受講生10名に質問を行った。結果は表2のとおりである。

表 2 日本語プレゼンテーションの授業で何を学びたいか

(選択肢より複数回答)

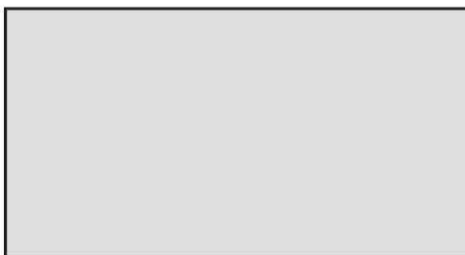
授業で学びたいこと	(人)
話すこと	8
説明する	8
発表能力	8
発表態度	5
発表を聞く力	5
研究調査能力	4
インタビュー能力	4
スライド作成力	3
内容構成力	2

表 2 からわかるように、日本語学習者10名はプレゼンテーションの内容構成やスライド作成のスキルよりも「話す」こと、「説明する」こと、「発表する」ことといった日本語の口頭表現技術を学びたいと考えている。

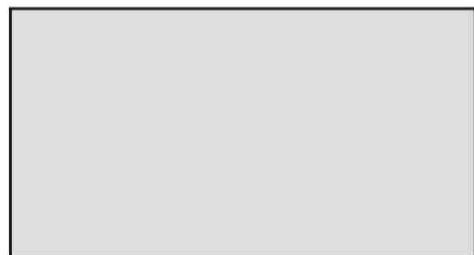
この調査結果をふまえ、「日本語プレゼンテーション」の授業は、日本語で話す力・説明する力・発表能力を身につける留学生のための日本語教育と位置づけ、実技を中心に実践的な授業デザインを考えた。この中には、聞き手として自分以外の日本語学習者の発表を「聞く力」の育成も含まれる。日本語で自分の意見や考えをわかりやすく説明するスキルを身につけるとともに専攻分野の学習や研究発表に役立つ調査方法や発表能力を実践的に学ぶことを目標にした。

図 2 スライドの内容項目例 (スライド10枚のケース)


1. テーマ・学部・名前



6. 質問と回答



2. このテーマを選択した理由



7. 調査結果



3. 調査方法



8. 考察



4. 調査対象



9. 結論



5. アンケート質問紙



10. お礼のことば・学部・名前

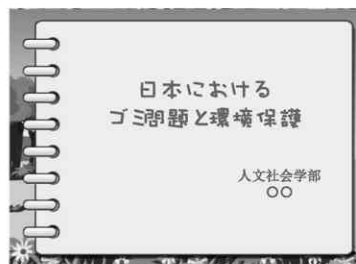


プレゼンテーションには、説明型プレゼンテーションと説得型プレゼンテーション<sup>2)</sup>があるが、本調査対象者10名のプレゼンテーションは情報を伝える目的の説明型であった。それは、留学生が将来の研究発表に役立てる目的で「日本語プレゼンテーション」を受講しているため、テーマに沿っての研究調査内容と結論をわかりやすく説明する構成を選択したからである。

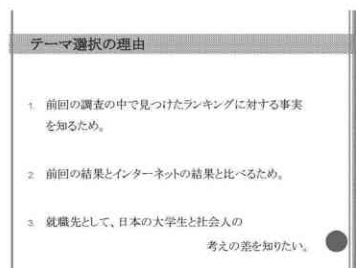
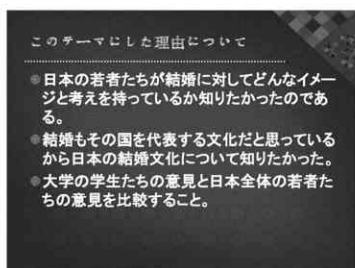
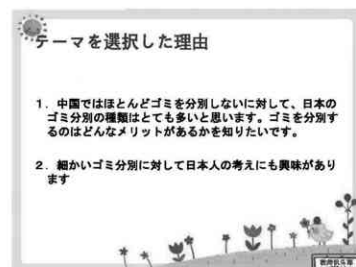
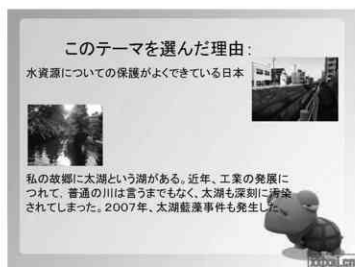
留学生が授業で実際に作成したスライドの中から資料としていくつか提示したい。資料1から4においてスライド作成例、口頭発表で行った日本語原稿例、新出語・語彙表例を提示する。

# 資料1 Microsoft PowerPointによる留学生のスライド作成例

## 「テーマ」の作成例



## 「テーマ選択の理由」の作成例

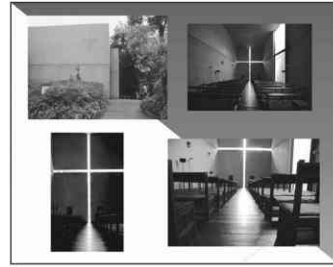
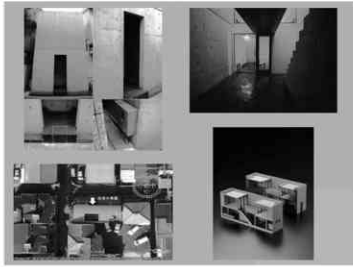








「写真」を利用したスライド例



**資料2** 留学生の口頭表現

発表例1 (スライド10枚から抜粋)

①最初の挨拶

皆さん、こんにちは。〇〇学部の〇△です。どうぞよろしくお願いします。私のプレゼンテーションのテーマは「日本におけるゴミ問題」です。では、これから発表させていただきます。

②テーマ選択の理由

私がこのテーマを選んだ理由は2つあります。

1. 私の国ではほとんどゴミを分別しないのに対して、日本はゴミ分別に関して種類がとても多いと思います。ゴミを分別するのはどんなメリットがあるかを知りたいです。
2. ゴミ分別に対する日本人の考え方に興味があります。

③調査方法

調査方法はインタビュー、アンケート調査とインターネット検索です。調査対象は本学の先生と〇〇学部の学生です。インタビューをしたのは男子学生5名、女子学生5名、アンケート調査の対象は先生5名、学生5名、合わせて10名です。

④最後の挨拶

以上で私のプレゼンテーションを終わります。ご清聴ありがとうございました。〇〇学部の〇△でした。

発表例2 (スライド12枚から抜粋)

1. 皆さん、こんにちは。私は□□学部の〇〇です。私が発表するテーマは「日本と韓国の部活動の比較」です。

私がこのテーマを選んだ理由は日本の学生は大半が部活動をし、さらに勉強より部活に集中している気がして自分の国の事情と比較してみたいと思ったからです。

2. 調査方法はインタビューとアンケートです。調査対象は大学生17人と韓国人留学生6人です。

3. アンケートの質問はご覧の通りです。
4. その結果、大学生17人全員が部活の経験がありその期間は平均7年間でした。韓国人留学生6人の内、2人が部活の経験があり、その期間は平均3年間でした。
5. その内容をご覧の通りです。大体運動系が多いが皆それぞれでした。
6. では、両国の学生が部活をした理由を見てみましょう。自分の好きなことを活かすため、友だちづくり、思い出づくり、小さい頃からやっていた流れ、自分の能力の強化、ひまつぶし、部活の内容が好きで、皆と遊びたくて、学校の決まり。
7. それでは、部活をしなかった学生の理由を見てみましょう。面倒だから、いい部活が見つからなかった、勉強のため、部活の回数が多いため、勉強に集中できないと思ったから。
8. 次は、日本と韓国の部活動の共通点と相違点です。まずは共通点です。目標を目指して頑張る、スポーツ系が多い。相違点はこちらです。日本の方がもっと情熱的、日本の方がもっと真面目に取り組む、韓国は趣味として適当にする、韓国は部活の時間に自習するが多い。
9. では、部活に対する両国学生の意見を見てみましょう。まずは部活肯定派の意見です。集団活動が身につく、責任感が学べる、自分自身の成長になる、熱中するものができる、思春期の肉体的・精神的形成によい、もっと奨励されるべき。次はその他の意見です。ちゃんとした目的をもって入部するべき、参加が強制であることは賛成できない、途中で辞めるのはよくない、部活のせいで勉強がおろそかになるのはよくない、時間の余裕があれば良い、なぜやるのか分からない。
10. 最後は考察です。部活動は学生時代に好きなことを生かしながら思い出や仲間ができる大事なことだと思います。しかし、それが誰かの強制でなく自発的であり、勉強に影響がない範囲で部活をするのは良いと思います。
11. ご静聴ありがとうございました。□□学部の○○でした。

### 資料3

#### 新出語・語彙表の例（留学生と教員の共同作成）

実際の表には、説明する語の前に「○○さんの発表のときに出てくることばです」と発表者名を入れている。（新エネルギーに関するテーマの発表時に使用した語彙表より抜粋）

さいせい かのう  
再生可能

（可再生）

こうしん

更新できる、復活できる。自然エネルギーと同じような意味のことばとして使われる。

かせきねんりょう  
化石燃料

化石燃料とは、動物の死んだ体、植物の枯れたものが地中に積もり、長い年月の間

に変化してできた燃料のこと。主なものに、石炭、石油、天然ガスなどがある。

**地熱**

地球内部の熱源(ねつげん)からのエネルギーをいう。

**バイオマス** (生物量)

もとは、生物の量のこと。

今日では、食物、木材、海草、生ゴミ、紙などの資源をいうことが多い。

#### 資料 4

留学生のプレゼンテーション風景



## 4 おわりに

本稿では留学生のための日本語教育の資料として、「日本語プレゼンテーション」の意義と役割に関する考察、授業実践からのスライド作成例と口頭発表原稿等を紹介した。今後、稿を改め日本語プレゼンテーション授業の成果と課題について、実践をもとに詳細に分析し論述したい。

### 謝辞

本研究にあたり、ご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

### 注

- 1) プレゼンテーションの意味や定義に関しては、ビジネスで使用される場合と学校の授業、しかも留学生対象の日本語プログラムの一環として使用される場合では異なる。たとえば「ビジネスプレゼンテーション」のテキストとして使用されているもの(森脇・武田、2011、10)では、「自分を通して、相手に何らかの情報を伝える」こと、「情報提供や商品の説明などを行うもの」、「人前で話をする」ことなど、様々な意味で使われている。
- 2) プレゼンテーションには、商品や企画をアピールする場合に使われる論理的な話で人の心を動かす説得型もある。

## 参考文献

- 大塚裕子・森本郁代編著（2011）『話し合いトレーニング』ナカニシヤ出版
- 奥村訓代（2005）「大学の学部における日本語教育の使命と役割—PowerPointを利用したプレゼンテーションの実践—」日本語教育学会『日本語教育』126号、pp55-64
- 福井有監修・大島武編著（2009）『プレゼンテーション概論』樹村房
- 三浦香苗・岡澤孝雄・深澤のぞみ・ヒルマン小林恭子（2006）『アカデミックプレゼンテーション入門』ひつじ書房
- 宮谷敦美・太田孝子・山田敏弘（2003）「多文化間コミュニケーションのための『日本語』教育—ディスカッションプログラムからの一提言—」『岐阜大学留学生センター紀要』同センター
- 森脇道子監修・武田秀子編著（2011）『ビジネスプレゼンテーション改訂版』実教出版
- 山田陽子（2009）「中国人就学生追跡調査に見る日本語と日本人観の変化—中国人学生の語りと面接質問紙調査から—」名古屋市立大学大学院『人間文化研究紀要』11号、121-132
- 山田陽子（2010）『中国人就学生と中国帰国子女—中国から渡日した子どもたちの生活実態と言語』風媒社
- 山田陽子（2010）『中国にルーツをもつ若者・子どもへの支援と言語教育の研究—日本で生活する中国人就・留学生と中国帰国子女を事例に一』名古屋市立大学大学院人間文化研究科2009年度博士学位論文
- 山田陽子（2011）「中国の高等教育機関における日本語教育と学習者の一側面—遼寧省の大学を事例に—」名古屋市立大学大学院『人間文化研究紀要』15号、71-82
- 山田陽子（2012）「留学生対象の『日本語プレゼンテーション』授業実践報告—話し方・研究調査・スライド作成の学習プロセスから—」日本語教育学会『日本語教育学会北陸地区研究集会第3回予稿集』11-12